

## 【1 長崎市 Nagasaki City】



稲佐山の山頂展望台から

長崎市では、野母半島の橘湾側（茂木港や川原大池など）、市中心部の稲佐山の山頂展望台や日見峠、西彼杵半島最高峰の長浦岳（琴海赤水公園）など、市内各地から橘湾・大村湾越しに“[南西面～北西面の雲仙岳](#)”が眺望できます。特に、稲佐山の山頂展望所からは、長崎港をはじめ長崎市内の町並みと JR 長崎駅を手前に、日見峠の奥に雲仙岳がそびえる景観が眺められ、夜は世界新三大夜景に数えられている市内の夜景とのセットが楽しめます。市内の小中学校の校歌には雲仙岳が登場し、地域で古くから親しまれてきたことが分かります。

中世の時代、南蛮船来航と共にキリスト教が伝来し、1563 年にはイエズス会のルイス・アルメイダが雲仙岳そびえる島原半島の南端の口之津（西九州の交通の要所）に入り、島原半島での布教を開始し、口之津は九州管内区のキリスト教布教の拠点となりましたが、1567 年には長崎でも布教を開始しました。長崎～大村を治めていたキリシタン大名の大村氏は、1571 年には長崎港を開港してポルトガルに提供し、以降、長崎港は南蛮貿易で繁栄しました。

その当時、雲仙岳中腹にある雲仙地獄は硫黄の鉱山と見なされ、イエズス会は島原領主の有馬氏に雲仙地獄の寄進を求め、有馬氏も内諾していたとされますが、1584 年に攻めてきた佐賀の龍造寺氏を打ち破るのに薩摩の島津氏の援軍を得た結果、敬虔な山岳信仰者である島津氏の雲仙岳の山岳信仰（中心地は雲仙地獄）復興の意向に配慮せざるを得なくなり、代わりに長崎の浦上村をイエズス会に寄進したとされています。それが、後々の浦上天主堂へとつながっていきました。

江戸後期に来日した博物学者・シーボルトは、著書「日本」の中で日見峠（↓）から眺望できる山として雲仙岳を詳しく紹介しています。幕末の頃、勝海舟・坂本龍馬の一行が江戸から長崎に出張した際には、瀬戸内海から大分に上陸して豊後街道を通り、熊本から有明海を渡って雲仙岳山麓の街道を通り、日見峠（↓）を通過して長崎に到達したとされています。この大分から長崎に至る別ルートとして、現在では国道 57 号線が通っていますが、この国道は、もともと阿蘇くじゅう国立公園と雲仙天草国立公園をつなぐルートとして、別府観光の父・油屋熊八氏が提案した九州横断道路（別府市～くじゅう～阿蘇カルデラ～熊本市～雲仙～長崎市）の一部となっています。

大正時代、中国から長崎を経て海路で雲仙岳西麓の小浜と天草へ伝わった“ちゃんぽん”は、各地で独自の進化を遂げ、現在では“日本三大ちゃんぽん”とも称される郷土食となっています。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、長崎市内を旅してみませんか？

●長崎市の観光情報はこちら ⇒ 長崎国際観光コンベンション協会 <http://www.at-nagasaki.jp/>



県道 34 号線（日見峠付近）から



野母半島の川原大池から